

第16回福祉映画会

令和8年11月28日(土)

さくら市氏家公民館ホール

さくら市櫻野1322-8

開式 午後1時30分【午後1時開場】

上映 午後1時45分～午後3時45分

入場無料
申込不要

バリアフリー
日本語字幕版



き 織 母
こ 細 に
え に 背
る 紡 を
息 が 向
子、 れ け、
そ る、 故
し き 郷
て こ を
あ え 離
な な れ
た い た
の 母 ぼ
物 と く。
語。

©五十嵐大/幻冬舎©2024「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会

定員350名

主催：さくら市社会福祉協議会

後援 さくら市
さくら市民生委員児童委員協議会連合会
涙涙さくら
さくら市身体障害者福祉会

□問い合わせ先
さくら市社会福祉協議会
さくら市喜連川904番地
TEL 028(686)2670

＊コードなきこえない、またはきこえない親を持つ聴者の子供

親子の物語が、そしてひとりのコードの心の軌跡が、点描のように紡がれていく――。監督は、本作が9年ぶりの長編作品となる、『そのみにて光輝く』『きみはいい子』の呉美保。作家・五十嵐大氏の自伝的エッセイを原作に、脚本は『正欲』の港岳彦。吉沢亮が、「きこえる世界」と「きこえない世界」を行き来しながら生きる主人公を体現、自身の居場所を見出していく若者の心を繊細に演じた。母・明子役には、ろう者俳優として活躍する忍足亜希子。

やがて母への想いが観る者の胸にも静かに温かく満ちていく、心に響く映画が誕生した。



2024年
上海国際映画祭
コンペティション部門
正式出品

母と息子、切なくも心に響く家族の物語

Story

宮城県の小さな港町、五十嵐家に男の子が生まれた。祖父母、両親は、“大”と名付けて誕生を喜ぶ。ほかの家庭と少しだけ違っていたのは、両親の耳がきこえないこと。幼い大に

としては、大好きな母の“通訳”をすることも“ふつう”の楽しい日常だった。しかし次第に、周りから特別視されることに戸惑い、苛立ち、母の明るささえ疎ましくなる。心を持て余したまま20歳になり、逃げるように東京へ旅立つ大だったが……。



監督：呉美保 主演：吉沢亮 脚本：港岳彦

忍足亜希子 今井彰人 ユースケ・サンタマリア 鳥丸せつこ でんでん

原扶貴子 山本浩司 河合祐三子 長井恵里

原作：五十嵐大『ぼくが生きてる、ふたつの世界』（幻冬舎刊）

企画・プロデュース：山国秀幸

製作：小山洋平 伊藤義彦 野村弘幸 荒木宏幸 一力雅彦 藤ノ木正哉 島田明夫

企画：宮崎大 プロデューサー：長澤佳也 音楽：田中祐人 撮影：田中剛 照明：溝口知 録音：小清水穂治 美術：井上心平 装飾：櫻井啓介 小道具：吉永久美子

衣裳：兼子潤子 ヘアメイク：山内聖子 原田ゆかり キャスティング：神林理央子 演技事務：橋原雲帆 助監督：水波圭太 制作担当：柴野澤 協力プロデューサー：高橋誠

編集：田嶋真子 VFXスーパーバイザー：帆足謙 カラダドバイロアール ワレオオーディオ&キネマ 野村みき サウンドエディター：大塚達哉

カラー・字幕演出：中野聖太郎 石村真由美 コーディネーター：前田信史 音響監修：杉本一樹 一般財団法人 全日本ろうあ連盟

協賛：やまや/カメイ/NTTクラレ

製作：『ぼくが生きてる、ふたつの世界』製作委員会（ワンダーラボリー/増田電機D.V.ミュージック&ピクチャーズ/ギャガ/JR東日本コミュニケーションズ

/アイ・ビー・アイ/アミューズ/河北新報社/東日本放送/シネマとうほく

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（映画創造活動支援事業）独立行政法人日本芸術文化振興会

©五十嵐大氏/冬舎 ©2024 『ぼくが生きてる、ふたつの世界』製作委員会

2024/日本/カラー/ビスタ/5.1CHデジタル/105分/映倫：G

配給：ギャガ GAGA gaga.ne.jp/FutatsunoSekai X@FutatsunoSekai

Living in Two Worlds

ぼくが生きてる、ふたつの世界